

編集月旦 2017年3・4・5月(春)号

★「月刊丈風」(1～52号)のこれまでの経緯をひとまず整理して、これからの活動へと繋ぐ『ニッポン発二一世紀オリジナル～「三世代平等型長寿社会」へ～』を論じています。

「高齢社会対策基本法」(1995年・村山内閣)・「高齢社会対策大綱」(1996年・橋本内閣)から20年の対策と成果を検証しつつ、これからの20年を見据えての論考です。

「基本法」(前文)が目標とした「長寿をすべての国民が喜びの中で迎え、高齢者が安心して暮らすことのできる社会」の達成をめざして、どう社会参加するか模索と提案です。

★「ニッポンは世界の宝石鉱脈である」(はじめに)と本稿は臆せずにいいます。

なぜとって、はるかな遠い日に、東に向かった文化の波は漢・韓を通じて日本に達して開花し、西に向かった技術の涛はローマ・西欧・米国を経てはるかに遠い日本に至って開化し、たどりついて開花・開化しなかった数多くのものは、この島のどこかに埋もれていて、それらは宝石鉱脈となって深く浅く横たわっているはずだからです。

☆本稿の「漢字かなカナROMA字まじり」の日本語は、世界の文化を撚り合わせ凝縮して総合していますし、「和食」をはじめ衣・食・住の日常のありようは、世界の技術の長所を融け合わせて統合を示しています。ご承知のように、わずかな事例のほかこの国からは西へも東へも出て行った形跡がないからです。

☆いまや東方にも西方にもパーツ・アンノウン(知られざる地)はどこにもなくなりました。陸からも、海からも、空からも、最終便は着いてしまったのですから、もはや待っていても何もやってこないのです。そんな溜め込み状況は、高齢者なら見て、聞いて、触れて、気づいていること。今、「ニッポンは世界の宝石鉱脈である」と臆せずにいえるのは、子午線と卯酉線を重ね合わせて、二一世紀初頭の世界を航空写真のように仔細に観察したうえで、いちやく確認したのが本稿だからです。

☆今、この国で「歴史的正午」の明るい陽射しを浴びているのは、若い女性やIT青年ばかりではなく、3400万人に達して史上初の「高齢世代」を形成しながら、資産と年金と多彩な趣味(しごと)に恵まれて暮らしているアクティブ・シニアのみなさんです。その暮らしの日また一日がニッポン発二一世紀オリジナルの重要な宝玉のひとつである「三世代平等型長寿社会」を磨きあげているのです。

★『日中文温の絆「四字熟語」の今がおもしろい』は、web「円水社」+として連載してきたものを分野別にまとめたものです。「四字熟語」(四字成語)は、広い漢字文化圏で先人がなした事跡(故事)を後人が人生の叡知として記憶し記録し用いてきたもので、漢字のもつ特徴を活かして多くは四字の形に整えられています。ひとつのことばからひとつの人生(四面楚歌や日復一日)を知ることでもあります。ここでは日本ではなじみが薄いけれども中国ではよく使われる内容の豊かな成語(熟語)を数多く取り上げています。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受できる「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり、高齢者の課題であり、本誌の目標です。(編集人 記)

